

## **Book Review**

### **ESSENTIAL MEDICAL GENETICS**

Fourth edition

J.M. Connor and M.A. Ferguson-Smith

(和文題名：わかりやすい臨床遺伝学，高野貴子，阿部 淳，岩谷 力 訳，  
医歯薬出版，1994，239 頁，8,000 円)

かねてより評判の高かった“Essential Medical Genetics”的原著第4版(1993)の日本語訳が出た。本書の特徴は、まず大変にわかりやすくまとめられ解説が行き届いていることで、訳本の題名に偽りはない。写真やイラストが多いことも嬉しい。網膜芽細胞腫の発生機構を説明するために3枚のイラストが使われていると申し上げれば、状況をおわかりいただけようか。白血病についても、病型に特異的な転座の組み合せがズラリと表に出ており、講義を準備する側にも大いに役に立つ。

項目の選定についても、伝統的な人類遺伝学領域の枠にとらわれず、DNA領域の最近の進歩によく対応している。DNA診断や、遺伝子マッピングの章が好例である。各章の内容についても、例えば染色体異常の章にXX男性、Prader Willi, Angelman症候群、その他の微小欠失症候群が独立の項目として取り上げられている。

DNA多型については、VNTRによる親子鑑定や、ミニサテライトによる個人識別、最新の(CA)<sub>n</sub>型反復配列の多型、RFLPを使う出生前診断や保因者診断、連鎖解析などが、たくさんのサザンプロットやPCRの写真を使って解説されている。

FISH関係の図版も大変に充実している。XX男性のSRY遺伝子付近のX短腕への転座を検出した写真、染色体ペインティングで5組の相同染色体を5色に染め分けた写真、未培養の羊水細胞の間期核による21トリソミーの診断などに加え、間期核を用いる遺伝子座位のオーダリングの実例まで出ている。

DNAやFISHだけでなく、多因子遺伝型の糖尿病の複数の座位を識別して最近注目を浴びた同胞対照法や関連解析など、非メンデル遺伝の解析についても、簡単ながら解説があることも指摘しておこう。

あえて言えば幾つか誤植などが残っているのが唯一の惜しまれる点だが、遺伝医学を学ぼうとする医学生や保健・健康領域の学生はもちろん、研修医や臨床家で遺伝子診断など最近の進歩にキャッチアップしたい方などに最適のテキストとして、無条件で推薦したい。

(東京大学医学部人類遺伝学講座教授 中込弥男)